

【高齢福祉課長】

では、よろしくお願いいたします。

今後の進行は、会長にお願いいたします。

なお、この会議は公開でございますので、会議の記録をとらせていただきます。発言の前に氏名を名乗っていただきますようお願い申し上げます。

【会長】

それでは、議題に入ります。

(1) の生活支援コーディネーター活動状況について。これは資料 4 になりますが、事務局からご説明をお願いいたします。

【高齢福祉課長】

資料 4 とカラー刷りの資料 3 をご用意ください。

生活支援コーディネーターの活動状況でございます。第 1 層の区全域のものとそれから各高齢者あんしんセンター（17カ所）に生活支援コーディネーターを配置してございます。私からは、この第 1 層の生活支援コーディネーターについてご報告をさせていただきます。

こちらの第 1 層の生活支援コーディネーターは、高齢者の生活支援・介護予防の基盤整備を推進していくことを目的として、地域において、生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築に向けたコーディネートを行う役割を持つものとして、平成 29 年度より北区社会福祉協議会に第 1 層（区全域）の生活支援コーディネーター業務を委託してございます。

資料 3 にございますように、北区全域を対象とするものが、おたがいさま地域創生会議といたしまして、こちらが政策形成を担う会議というものでございます。こちらの会議の支援も含めて、北区社会福祉協議会にお願いしているものでございます。

こちらのおたがいさま地域創生会議のところに、ワーキンググループの設置というふうに書かせていただきましたけれども、各圏域の地域課題の共有化および各分野の意見や知恵からサポート・サービスの創出へつなげるために、ワーキンググループを今年度から設置いたしまして、やっていきたいというふうに考えております。

29 年度で、生活支援コーディネーターを社会福祉協議会に担っていただきましたが、より具体的なモデル的な事業を創出していくために、ワーキンググループを設置していきたいというふうに思っております。

そして、各高齢者あんしんセンター単位のところで、地域包括ケア連絡会とございますが、こちらが地域課題の検討を行うものとして位置づけておりまして、いわゆる協議体の役目をするものというふうに考えてございます。高齢者あんしんセンターや地域でできるサポートの創出、課題解決ネットワークづくりを行っていく、その高齢者あんしんセンター単位のものを王子・赤羽・滝野川圏域のところで、また課題抽出なり取りま

とめを行い、区全域のこちらのおたがいさま地域創生会議に上げていくというものでございます。

私からの説明は以上でございます。

【会長】

はい、ありがとうございました。ただいまのご説明に関しまして、ご質問、ご意見、いかがでしょうか。組織体系と目的、役割に関してですが、よろしゅうございますでしょうか。まだ、難しい部分はあるかと思うんですが、多分また具体的な話になってきたらわかるかと思いますので、じゃあ進めさせていただきたいと思います。

続きまして、平成30年度の取り組みということで、資料4の後半と資料5の説明を北区社会福祉協議会の委員よりお願いします。

【高齢福祉課長】

会長、すみません。この高齢者あんしんセンター単位でのコーディネーターの活動状況を高齢相談係のほうから説明させていただきます。

【会長】

失礼しました。はい、じゃあお願いいたします。

【高齢相談係】

高齢福祉課高齢相談係です。

資料4の1番の中の(2) 高齢者あんしんセンター 見守り／生活支援コーディネーターについてご報告をさせていただきます。

各高齢者あんしんセンターに、地域包括支援センターで示されている3職種のほかに、北区の場合には、見守り生活支援コーディネーターという職員を配置しております。平成24年度から見守りコーディネーターということで、地域の中で見守りが必要な方々の把握、それからそういった方々への支援の創出ということで、かかわらせていただきました。介護保険の改正によって、28年度からその見守りコーディネーターの方に生活支援コーディネーターも兼務していただくという形で配置をしております。

②番、平成29年度活動状況でございます。(ア)のところに活動内容として統計を載せさせていただきました。各団体との関わりの内容としては、関係形成、連絡調整等々でございます。その中で、28年度から大きく変化していると感じるところは、会議・事業参加が割合としてはふえております。すみません、こちらには29年度の数のみ載せさせていただいております。実際に地域の中でどんな団体が活動しているか、あるいは活動内容を知りたいということで、各団体の会議等に参加している数がふえているのかなと推測しております。

資料4の2ページ目、今の1枚目の裏面になります。

(イ) 連携先です。こちらに関しては、民生委員さん、それから町会・自治会さんといった方々とかかかわりは、変わりないんですけども、非常にふえているのが、住民団体（ボランティア、NPO等）が含まれますが、そういった住民団体とかかかわりが28年度に比べて非常にふえています。やはり、地域の中での活動、住民主体で行われ

ている活動先にアプローチをさせていただいているというところがあらわれているのかなというふうに思います。

(ウ) 社会資源リストの作成でございます。こちらは、28年度に配置しましてから各高齢者あんしんセンター、それぞれで情報収集をしていた社会資源、いわゆる地域の中の活動状況を同じような形で把握をしていこうということで、足並みを揃えてリスト作成を始めています。それが地域住民、ボランティア団体などが行っている活動のリスト化ということで、これは引き続きまた行っていく予定です。

(エ) 地域課題の把握および検討を行う会議への参加ということで、先ほど高齢福祉課長のほうから説明がありました資料3の中の高齢者あんしんセンター単位の地域ケア個別会議が33回。地域包括ケア連絡会、これは各高齢者あんしんセンター及び3地区で行っている連絡会の総数になりますが27回。そして、認知症支援コーディネーター・認知症地域支援推進員という、高齢者あんしんセンターの看護職等々が兼務しておりますこういった職種の人たちとの合同の課題の検討会を始めておりまして、これは年に2回開催しております。

(オ) 各会議、連絡会からの課題・取り組みを抜粋いたしました。大きく課題を分けております。五つの課題をこちらでは取り上げました。一つが担い手不足。一つが場所の不足。三つ目が交流・つながりがもっと必要ではないか。四つ目が買い物・生活支援が難しい、必要な地域がある。そして、五つ目が交通・移動が困難な地域があるというふうに分類をさせていただいております。

この課題に関して、各地区で取り組める内容もございます。また、もうちょっと広い地域で考えなければいけないような取り組みもございます。ということで、少し分類をさせていただいております。

最後に、活動の傾向ということで書かせていただきました。活動内容は、先ほど申し上げた「会議・事業参加」が多くなっている。連携先としては「住民団体」がふえています。その地域の情報の収集、それから地域ケア個別会議や認知症初期集中支援事業等に見守り生活支援コーディネーターがかかわる、参画することで、個別のケースだったり、地域からの課題の把握、集約ということが、今、進んでいるところです。

この後も、また引き続き住民主体の活動や区民の方々に対するサポート、支援の創出に取り組んでいきたいというふうに考えています。

以上です。

【会長】

はい。ありがとうございました。ただいまの見守り生活支援コーディネーターの関するご報告に関しまして、何かご質問、ご意見いかがでしょうか。

恐らくまた後ほどワーキンググループの話が出たときに、こういった課題の振り返りが出てくるかと思いますので、それでは、次のご報告に移りたいと思います。

それでは、30年度の取り組みについてということで、資料4の後半と資料5の説明を社会福祉協議会の委員よりお願いいたします。

【社会福祉協議会委員】

北区社会福祉協議会でございます。

私のほうからは、第1層生活支援コーディネーターの30年度の取り組みについてご説明をさせていただきます。

まず、資料4のほうですけれども、今年度も昨年度に引き続き、北区社会福祉協議会のほうで、第1層の生活支援コーディネーターの業務を受託をさせていただきまして行っておりまして、平成30年度からは、変更になった点が一つございまして、今年度からは、専任のコーディネーターを1名配置をいたしまして、業務を行っていきたいと思っております。きょう、オブザーバーで参加をしております職員になります。よろしくお願いいたします。

1層を通して専任を立てまして、区と高齢者あんしんセンターに配置をされております2層の見守り／生活支援コーディネーターの皆さんと密接に連携をしながら、業務のほうを進めてまいりたいというふうに考えてございます。

今年度の大きな取り組みとして、先ほど高齢福祉課長のほうからございました、ワーキンググループ、こちらのほうの運営を行う予定でございますので、資料の5をごらんをいただきながら、ご説明をさせていただきたいと思っております。

まず、このワーキンググループですけれども、資料の5の下の部分、下段になります。この目的などですけれども、モデル地域を選定をさせていただきまして、1層の役割であります地域の課題共有、それから既存の地域資源の整理、それから確認を行って、必要な生活支援サービスの創出を目指していきたいと思っております。

それから、2点目ですけれども、地域の住民・団体という小地域の部分の住民・団体の方だけでなく、広域でも活動や事業を行う多様な機関・団体、そういった方々も入っていただいた会議体（協議体）を立ち上げて、その皆さんと一緒に検討しながら進めていきたいと思っております。

それから、この本プロジェクトをこのワーキンググループを行うことで、北区全域の生活支援サービスの創出の事例として、今後の検討や取り組みに生かしていきたいというふうに考えてございます。

また、取り組みに当たりましては、既に北区の中の志茂の地域で、会長が行っていたいております健康長寿医療センター研究所さんのほうが進めて、北区さんと一緒に進めている「志茂ジェネ協議会」、そういったものが既に行われておりますので、そういったものもぜひ参考にさせていただきながら進めてまいりたいと思っております。「志茂ジェネ協議会」については、後ほど会長にぜひご紹介いただければと思っております。よろしくお願いいたします。

では、1枚おめくりいただきまして、今回、そのモデルの地域を赤羽北3丁目を選定させていただきました。こちら、上の段に人口割合などを書いてございますが、こういった人口の割合になっておりまして、北区全域と比較しますと、若干年少人口、高齢者人口、少しそれぞれ違いがありますけれども、ほぼ同様な状況の地域なのかなとい

うふうに思っております。年少人口が13%で、北区の場合は10.24%です。それから、生産年齢の人口、働く世代の方たちは、この赤羽北3丁目は60%で、区全域では65%ぐらいです。それから、高齢者については、この地域は27%で、北区全域では25.11%ということですので、少しずつ、数パーセントずつは違いはありますけれども、そんなに大きく違うということではなくて、まさに北区の全域と比べても、縮図といいますか、同じ状況にある地域なのかなというふうには思います。若干高齢化率は高いかなと思いますが。そういった人口割合になっております。

地域の状況といたしましては、薄くピンクに色づけされているところが、ちょうど赤羽北3丁目になりますけれども、こちらのほうが少し上のほうが崖があり地域が分断されているというふうに、ちょっと小さいですけれども書いてございますが、最寄りの駅が北赤羽の駅になりまして、そちらから見ますと、この地域はちょっと高台のほうにある地域になっておりまして、駅のほうから行きますと、大きな坂を上っていかないといけないような地域になってございます。そこが一つ高台にあるというところがあります。

それから、この3丁目の地域内に買い物できる場所が幾つかはございますけれども、たくさんはないというような状況。それから、駅までは、基本的には交通はバスが頼りということになっておりまして、総合的に見ますと、特に虚弱のご高齢の方々にとっては、大きな課題になっているのかなと思っております。

ちょっと小さくて、大変恐縮ですが、青いところの地図内の青い点が、飲食店ということで、おそば屋さんですとか中華屋さんですとかそういったようなものですね。それから、買い物というところだと、赤い点のところにコンビニがあったり、本当に小さなスーパーがあったりお弁当屋さんがあったりというような感じの地理状況になっております。こういった地域になっております。

下の図ですけれども、少し虚弱の高齢者にとっては、少し課題もあるのかなというところですが、逆に地域資源というところでは、非常にたくさんの資源もあるということで、その下の段のスライドにそちらを載せさせていただいております。

まずは、この特別養護老人ホーム、施設が赤羽北さくら荘、それからシルバーピア赤羽北ですね、こういった施設が二つあります。また、特養ホームといいますと、ちょっと3丁目からは外れていますけれども、下のほうにやまぶき荘の高齢者あんしんセンターもございますので、地域の中に施設がたくさんあるという感じです。

それから、大型のマンションがあるのが非常に特徴かと思えます。東京メガシティという863戸入っている大型マンションがあります。

それから、諏訪神社という神社がありますので、そちらの氏子さんたちのつながりも、非常に独自のつながりがあるということで、そういったことが特徴があったり、それに伴いこのシニアクラブも非常に活発に活動していらっしゃる。2クラブあるんですけれども、その町会の垣根を越えて、非常に活発に活動しているというような状況があったり。

また、学校も桐ヶ丘高等学校という学校がありますし、エリアはちょっと外れますけ

れども、中学校もすぐそばにあったりもしますし、また私どものほうの「地域支え合い活動団体」、食事会や茶話会などをやる団体ですけれども、そういったボランティアのグループも、この小さなエリアの中に2カ所あります。

そういった意味で、非常にたくさんの活動に活用できそうな場所であるとか、活躍をしていただけそうな人材がいる地域なのかなというふうに考えております。

実は、7月7日に東京メガシティさんの夏祭りがあったもので、お邪魔させていただいたんですが、お子さんたち、若い世代の方たちなんかも非常にたくさん参加をされてにぎわっておりました。

少し自治会の方にもお話を伺うことができたんですけども、やはり大きなマンションなので、ここの自治をちゃんとするというのは大変なだけで、ほかの周りの自治会ですとか周りの地域とも、一方で連携をどんどん図っていかないと、いろんな災害時なんかも心配なんだよなというようなご意見などもあり、非常にこれからいろいろな連携をしていける可能性があるのかなと個人的には感じております。こういった地域資源がある地域でございます。

おめくりをいただきまして、そういったことを踏まえて、この赤羽北3丁目を選定させていただいたわけですけども、今ご説明した地域の状況から幾つか地域選定した理由ということで上げさせていただいております。

まず、この地域状況から、ちょっと言葉があれですけども、「買い物難民」「移動難民」という、少し買い物が不便で困っていらっしゃる方ですとか、移動が困っていらっしゃるという、特に虚弱の高齢者の方が多いかもしれないんですけども、そういったことも課題になっているということがあります。

先ほどご説明がありました資料の4に上げられておりました地域の課題というところで、包括の職員の皆さんが挙げていらっしゃる課題の中にも、同じように買い物支援、それから移動の支援、それから高台にあって、というような記載があったかと思いますが、やはりもちろんこの赤羽北3丁目地域だけでなく、同じようにほかの地域でも買い物が不便な地域、移動がなかなか困難な地域というのがあるかとは思いますので、今回、この地域もこういった課題がありますので、一つモデルにした選定の理由として上げさせていただきます。

それから、二つ目が、複数のコミュニティ、強いつながりがたくさん存在をしている地域だということです。先ほど地域の地域資源についても少しご紹介をさせていただきましたが、非常に古くから住んでいらっしゃる住民の方々と、新しく戸建てや新しいマンションに住まわれたりするような新住民の方ですとか、もちろん高齢者の世代、子育て世代、それから戸建の方、集合住宅の方、それから神社を通じた氏子さんのつながりが非常に強いということもありまして、非常にいろいろなつながりがあるところに属していたり、いなかったりというようなところで、幾つかの複数のコミュニティがあるというよさと、それぞれのつながり同士をつなげていくというところのちょっと難しさの両方があるのかなというふうに考えています。ですので、今回のワーキングで、そ

こちらのほうを課題として取り組んでいきたいということで、二つ目に上げさせていただいております。

それから、三つ目は、先ほどもご紹介したとおり、施設や高校、ボランティア団体など、これから活躍していただけたような資源がたくさんあるということ。

それから、もう一つは、特徴的なんですけれども、2カ所のあんしんセンターが管轄する地域です。こちらは、赤羽北高齢者あんしんセンターと桐ヶ丘やまぶき荘高齢者あんしんセンター、この2カ所が赤羽北3丁目地域を管轄をしております。この二つが管轄しているということで、情報共有をしながらより効果的な取り組みが期待ができるのではないかとということで、この4点をこの赤羽北3丁目地域を選定したということで理由に上げさせていただきました。

それから、その下ですけれども、では、具体的にこの赤羽北3丁目のワーキンググループについて概要を書かせていただいております。

名称は、これから検討をいたしますが、ワーキンググループといいますと、ちょっと住民の皆さんもちょっとわかりづらいかなというところでは、ここでは「赤北3さんプロジェクト」としてありますが、何かわかりやすいといいますか、なじみのよい名称をつけたいと思っておりますが、そういった名称をつけて、実施主体は、私ども第1層コーディネーターの社会福祉協議会、それから、先ほど申し上げた赤羽北、桐ヶ丘やまぶき荘の二つのあんしんセンターの生活支援コーディネーターの皆さんが主体となって、ワーキングを進めていきたいというふうに考えております。

この会議体、協議体のメンバーとして考えておりますのは、地域の町会自治会の皆様、民生委員の皆様、それからボランティアグループ、ささえあい団体、それから地域の中で事業を行っていらっしゃるデイサービスセンターさんですとか施設、それから教育機関、まあ高校ですとか、コミュニティソーシャルワーカーも桐ヶ丘のこちらのほうもありますので、そちらのもの。

それから、これは皆様にお話ししたいところなんです、こちらのこのおたがいさま創生会議の委員の皆様方からも、ぜひメンバーのほうに少し加わっていただけないかなと考えてございますので、またこちらは後ほど個別にご相談をさせていただきたいと思っております。このワーキンググループのメンバーは、特に固定ということではなくて、検討を通しながらメンバーを変更していきながらと考えてございます。

内容につきましては、皆さんで集まりながら、地域の課題などを共有をしていくためのワークショップ、取り組みをさせていただいたり、打ち合わせや学習会など必要に応じて行っていきたいと思っております。今年の10月からスタートをしていきたいと考えてございます。

最後になりますけれども、効果ということで、少し何点か上げさせていただきました。地域の課題をこのワーキンググループで検討することで、地域の皆さんと一緒に考えていくことで、住民、施設・関係団体とのそれぞれの地域の中での関係がより深まるのではないかと。地域内の生活支援サービス、例えば買い物であるとか移動である

とか、そういったようなサービスが向上することで、さらに暮らしやすい地域になるのではないかと。この3丁目で実施した地域の課題共有を、いろいろな資源の整理・確認をすることで、この取り組み自体を赤羽北全域、桐ヶ丘全域、もちろん北区全域にも参考にすることができるのではないかと。ということ。

それから、各2層の高齢者あんしんセンターの協議体の活動事例として、またこれも皆さんで、地域の皆さんが集まって話し合いをして、いろいろなことを決めていたり、課題共有をしたりというようなところの活動の事例として、ほかの地域での取り組みにも参考にさせていただくことができるのではないかと。ということで、この4点を効果として上げさせていただきました。

これから地域のそれぞれの皆様にお話をしながら、このワーキンググループの動きを進めてまいりたいと思いますので、また次のときにもご報告をさせていただきますとともに、この委員ということで、ぜひお声がけを、個別にもご相談をさせていただきますので、そのときには、ぜひこのワーキンググループにも一緒に参加をしていただけたらなというふうに思っておりますし、会長にもいろいろご指導いただければと思っております。

長くなりましたが、1層のコーディネーターの今年度の取り組みについては、以上となります。ありがとうございました。

【会長】

はい。ありがとうございます。どうでしょう。何かちょっとご紹介したほうがよろしいですか、今ここで。

【高齢福祉課長】

お願いします。

【会長】

はい。どうもすみません。

新たなモデル事業を今回赤北のエリアで展開されるというところで、非常に私も期待しているところでございます。たまたまでございますが、我々の研究所のほうも3年前から国のモデル事業の研究費をいただきまして、志茂の地区で、それこそあくまでモデル事業ですので、多世代で支え合えるようなコミュニティーをどうつくっていくかといったようなプロジェクトをこれは区役所、社協さん、またあんしんセンターさんも含めているような団体さんにご協力いただきながら進めております。

少し、どんなことをやっているのかということで参考になるかと思うんですけども、そもそも先ほどから生活支援コーディネーターさんの課題という、共通の課題というのが、担い手不足であったり場所がないとか交流とか生活支援とこういったものというのは、恐らくどこの地域でも課題であると同時に、高齢者だけの問題ではなくて、子ども・子育て世代の方もかなり共通して課題を持っていらっしゃるということがわかりました。

特に、地域の後継者をどう育てていくかというところで、できるだけ高齢者の方だけですと限界があるので、何とか若い世代にも入ってきていただきたいという思いがござ

いまして、せっかくこういう協議体なんかをつくるなら、子ども関係、例えば子ども交流館さんですとか学校関係さんとか、あるいは「ほっこり～の」さんといひまして、もともと十条で展開されているママさんのサロンを運営されているような団体さんといったところと一緒に巻き込みながら、地域の課題を解決していくといったような協議体を大体月に1回ぐらい勉強会というのを進めてまいりました。その中で、いきなり助け合いと言っても、今のこのご時世ですので、なかなか難しいだろうということで、できるだけ多世代で楽しんだり交流するような機会とか場も必要だろうということで、「ほっこり～の」さんというママさん向けのサロンでシニアの方が、例えば子ども食堂のお手伝いをされるとか、あるいは区が育成された認知症予防の絵本の読み聞かせを勉強された方々が、一部、志茂の方々がそういったサロンなんかでも子ども、子育て相手に読み聞かせをされたりといったような、そういった子育ての場に高齢者の方が参画していくというようなスタイルをまずはつくってまいりました。

それで、逆に今度は、じゃあ子育ての方々も高齢者のほうをいろいろかかわっていたきたいなというようなこともありまして、中年、あるいは子育て世代も含めて、「まち・人・くらしプロモーター」といったような新たなボランティアさんも、今現在10人ぐらい活動されていまして、最近、社協さんのいろいろご支援もありまして、志茂の小規模地域活動拠点という空き家を改造したものを社協さんが管轄されているというところで、そういったところを一部活用させていただいて、住民さんでニックネームも「志茂ぞうハウス」というニックネームをつくれまして、そこで今度は世代に共通したお楽しみ、例えばちょっとおしゃれな石けんを使ったデコパージュというんですね、そういうママさんも高齢者も楽しめるようなものとか、あるいは健康づくりに関するものとか、防災とか、あるいは縫い物とか全ての世代で共有できるようなものやっけていきながら、そこでちょっとした困りごとなんかも解決できるような、「こういうことができますよ」といったような掲示コーナーをつくろうとか、そういった交流の中で、お助けができるようなゲームをちょっとやったりといったような、そういう自然な形で助け合いにつながるような取り組みを今、始動し出しました。

さらに、こういった交流なんかも、まだまだ地域の方々にはなじみが少ない部分もありますので、もっとその裾野を広げようということで、日ごろの挨拶とか声かけをどんどん地域で広げていこうという「挨拶キャンペーン」というのをやっているんですね。現在、挨拶の担い手である住民の方々が約80人近くいらっしゃるしまして、青少年委員さんとか民生委員さん中心にキャンペーンしていただいています。私もこれぶら下げています。「挨拶さん」という、こういうものをぶら下げて、「これをしている人は、安心して挨拶できる安心なおじさん、おばさんですよ」というような、まあそういうことをですね啓発するような活動もしているといったようなところでございます。

今後、こういった活動も、確かなかなか言うは易しで、多世代が交わって支え合うというのは、本当に工夫も要りますし、時間もかかることなんですけれども、我々もあくまでモデル研究として試行錯誤やっております、今後は赤北さんの取り組みなん

かも、逆に勉強させていただいたりとか、ほかの皆さん方の意見をいただいたりして、双方で高め合って、こういったプロジェクトを区の中で全体に広がっていくようなことができればなということで活動しております。

ちょっとご紹介長くなりましたが、ぜひまた皆さん方も何か機会があれば、ご見学に来ていただければと思います。

以上でございます。

では、全体のこの社協さんのワーキンググループに関しまして、ご質問、ご意見。

はい、じゃあ、委員、お願いします。

【委員】

介護サービス事業者から来ました。詳しいご説明、ありがとうございます。

意見です。一つは、事務的なことです。このワーキンググループの中間的な、または全体としての期間ですかね、どのぐらいの見通しで考えていらっしゃるかというのを、もしお話しいただければというのが1個。もう一つは、地域選定のところで、非常に詳しく、住んでいない自分にとってもわかりやすいお話いただいたんですが、その中で、北区の中で、どこの地域でも何らかの形でここに出てくるような課題というのはあるでしょうし、それぞれのボリュームの違いはあっても、恐らくどこにするのかという意味では悩まれた経過があると思うんですけど、恐らく全体を見渡してどこにしようというふうに、社協さんが決めるだけでなく、もしかしたら地域の中から、ぜひ自分たちの地域をというような声を含めて動きがあったかもしれないと思いながら伺っていたんですけど、最終的にここに絞られた、いわゆる背中を突き動かされた、もし何かありましたらお話を伺えたらと思っています。

以上です。

【会長】

はい。ありがとうございます。どうぞ、社会福祉協議会委員、何かコメントあれば、いかがでしょうか。

【社会福祉協議会委員】

はい。期間につきましては、まずは今年度ということで考えておまして、ただ、今年度で例えば新しいサービスがもうすぐに生まれるかということ、そこはちょっと難しいのかなというふうには考えておりますので、まずは皆さんと話をしながら、話し合って地域課題を共有して、土台をまずはつくっていくというところからスタートかなと考えております。ですので、今年度中に何かサービスをということではないかなと思います。が、それは今年度が終わっても、引き続き検討の場が続いていくようなことができたらいかなというふうに思っております。

地域選定につきましては、非常に悩ましいご質問なんですけれども、私たちの中で、昨年度2層の生活支援コーディネーターさんたちの活動状況を皆さんから上げていただいて、今、取り組みをしている状況なども確認をさせていただく中で、今、この地域で、買い物支援ですとかという課題について取り組みを始めようとしているような動きが少

しあるというようなところの報告があったのが、一つちょっときっかけとしてありまして、その中で、地域のほうも見ていく中では、先ほどご紹介したようないろいろな地域での課題、共通するような課題というものもございましたし、2層の地域の生活支援コーディネーターさんとも相談をしながら、この地域で今後、協議体をつくって話し合いをしていくというところが必要ではないかという課題意識ですとか、そういったことを含めて選定をさせていただいたというところになります。答えになっているかどうかかなんですが、すみません。

【会長】

ありがとうございます。モデル地域ですので、必ずしも成功するかどうかかわからないわけでございまして、案外2番手、3番手、少し待機していただいたほうが本当に成熟したものを導入できるかもしれませんので、ぜひ見守ると同時に、またご支援いただきながら、アドバイスいただきながら、参画していただければと思います。

ちょっと時間も過ぎてまいりましたので、次の議題に移ってよろしいございますでしょうか。

はい。じゃあ委員、お願いします。

【委員】

お時間押しているのにすみません。包括で生活支援コーディネーターをやっています。

今のワーキンググループのほうのお話も聞いたのと、あと、そのもう少し前のほうで、生活支援コーディネーターの昨年度の活動状況のところのご説明があったときに、連携先として医療というところが、かなり少ないなというふうに感じて、私自身も、あ、そういえば医療の方と生活支援コーディネーターが連携するという機会が余りなかったということに気がつきました。

で、連携先の次のページのところに、買い物・生活支援というところの内服、通院の声かけ、定期通院に来ない時に連絡をもらえる仕組みというところで、最近、医療機関のほうから定期通院に来ない方、ご連絡をいただいたりとかして、この方の安否を確認してくださいというお話が、最近ちらほら医療機関のほうから声が上がっておりまして、こういうものをもっともっと積極的に取り入れていかなければいけないし、医療関係者の方にもぜひ連携をしていただけるとありがたいのかなというふうに思います。

介護医療連携では、介護されている方、療養されている方の連携は行われていても、元気な方の連携というのは、なかなか難しいものがございますので、今回のワーキンググループに関しても、医療面が余り入っていないなというところが一つあるので、できれば医療関係のお話も入ってくるといいのかなと非常に思いました。

【会長】

はい。ありがとうございます。

委員、もし何かこの通院、顔の見えなくなってきた患者さんへの何ていう、フォローなんかのアドバイスがございましたらお願いします。

【委員】

ありがとうございます。大変貴重な重要な点だと思います。確かに今までかかった患者さんが来なくなったりすると、やっぱり心配するのは人情だと思うんですね、やっぱり気になりますんで。まあそういう方はもちろんフォローアップしていただくために、やっぱり連絡とるのはすごく大事なことです。

それから、もう一つの医者要らずの方も結構いらっしゃるわけですよ。そこら辺のところをもう少し何かうまく取り込んでいけるとよいかなと思うんですけどね。はい、ありがとうございます。

【会長】

まあ先生方からしたら、そういうときに、ちょっと心配な場合に、あんしんセンターに様子を見に行ってもらえるんだよというようなことも周知をしていただくということで、新たなラインができるんじゃないかなと思いますので、ぜひよろしく願いいたします。これは、恐らく歯科の先生も同じだと思いますので、ぜひそういうちょっとルートを今後開発していただければと思います。よろしく。いかがでしょうか。

【委員】

今、委員からのお話が、本当に的確なところを捉えているなと思ひまして、私のほうも、私のところに直接ケアマネさんのほうから連絡来ることもありますけれども、こちらからなかなか連絡する、そういうあれがないので、その辺は医師会のほうでも周知するように、これからしていきたいと思います。

【会長】

ありがとうございます。

それでは、次のご説明に移りたいと思いますが、高齢者あんしんセンターの取り組みについて、事務局よりお願いいたします。

【高齢相談係】

30年度の高齢者あんしんセンター見守り生活支援コーディネーターの取り組みについて、簡単にお話しさせていただきます。資料4の最後のページの(2)番になります。

一つ目の黒ぼちですけれども、集めております社会資源の情報から今年度「北区シニアお助け地域ガイド～居場所編～」ということで、資料6に情報の案をおつけしております。こちらのほうを皆様にお配りできたらいいなということで作成中です。

情報は、高齢者あんしんセンターの生活支援コーディネーターが集めておりますが、今、これの取りまとめを社会福祉協議会の第1層の生活支援コーディネーターのほうにお願いをして、まとめているところでございます。高齢者あんしんセンターの生活支援コーディネーターならではのホームページとかにも出ていない情報も多く入っていると思います。身近な地域の情報のリストになって、関係機関の方々や区民の方にご活用いただけるといいなと考えております。地域の方からもこんな情報あるといいなというようなご意見いただけると、今後ありがたいなと思います。

二つ目の黒ぼちです。3圏域地域包括ケア連絡会でのネットワーク構築、サポート創出の検討ということで、引き続き行っていきます。

資料が行ったり来たりで申しわけないんですけど、資料3の会議の3層のものの図の真ん中のところになります。王子・赤羽・滝野川の各圏域で連絡会を持つ予定が決まっておりますので、ここに示させていただきました。各圏域の日時がこちらのようになっております。それぞれのテーマは、今までコーディネーターが把握してきた地域課題、それから地域の中でこんなことについて話し合ったらいいんじゃないかというようなご意見を踏まえて、テーマをセッティングしております。

これらの会議のほうには、今日この会にご参加いただいている委員の方々のご所属等にお誘いのお手紙等を差し上げたりする機会が多いかと思います。ぜひ、それぞれがお持ちの知見とかアイデアをこういった会議の場で共有させていただけたらと思います。この中でまた新しく出会う団体と新たな地域のサポート、仕組みづくりを考えていける機会にしたいと思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。

そして、最後、3番目の黒ぼちですけれども、引き続き高齢者あんしんセンターでの各会議等で、見守りコーディネーターのほうも絡んで協働を図っていきたいと思っております。地域の中で、実際にこんな活動をしたいとか、あるいはこんなことで困っているんだけど、自分はどうしていいかわからないなというような方々もいらっしゃるかと思いますので、ぜひ皆様の中でそういった情報を集めていただけたら、また新しいことができるのかなと思っておりますので、引き続き一緒に活動をお願いできたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【会長】

はい。ありがとうございます。何かご質問、ご意見、いかがでしょうか。

じゃあ、委員、お願いします。

【委員】

この北区シニアお助け地域ガイドのところで、ちょっと今見ていたんですけど、この内容のところで、いろんな内容がある中で、「サロン」と書いてある、その「サロン」という捉え方が、「サロン」というのは、趣味活動的なところで捉える「サロン」という概念、捉え方ですね。「サロン」って広いじゃないですか。「サロン」だけ書いてあっても、なかなか何をしているのかわからないのかなと思ったりだとか、「サロン」ってこう、何やっているのかなとわからないのかなと思うと、もう少し具体的に書いてもらえるほうが、区民にとってわかるのかなと思いました。

【会長】

事務局、サロンのもう少し詳細といいますか、あらわし方に関して何かご見解はありますでしょうか。

【高齢相談係】

高齢相談係です。ご意見ありがとうございます。

やっぱり情報の量が多くて、どういうふうにくまなくまとめたらいいいのかなというところは悩みな点です。少し、お茶のみのサークルとしてまとめてみたり、あと趣味というものでまとめてみたりというような形の工夫はしているところなんですけれども、また

見直していきながら、整理をできたらいいかなと思います。

ほかにも、例えば高齢者あんしんセンターが主催しているふれあい交流サロンについては、また別に一覧表をつくっていたりして、全部のものを一遍に載せると、すごく情報のボリュームが多くなって、読みにくいかなというようなことも考えて、今、こちらにあるものは、本当に生で得てきた情報という形になっています。使っていただきながら、またご意見をいただけたら幸いです。

【会長】

はい。ありがとうございます。

こういった地域の資源の情報も、必ずしも紙ベースだけではなく、専門職の方がいろいろな地域の住民の方にお知らせするには、今、やっぱりウェブ、インターネットなんかで管理したりということもあり得るかなと思います。そういったものも、今、ちょっと区の方へも、一緒に私ども勉強会もしておりますので、また情報の提供の仕方は、少し工夫ができるんじゃないかなと思いますので、よろしくお願いいたします。

その他はよろしゅうございますでしょうか。ほかにご意見、ご質問。

(なし)

【会長】

はい。それでは、一旦ここで事務局にマイクをお戻しいたします。

【高齢福祉課長】

本日はありがとうございました。

その他ということで、今後のスケジュールについてご連絡をさせていただきます。おたがいさま地域創生会議、年に2回の開催を予定してございまして、年度後半のほうにこのワーキンググループの活動報告などを含めて開催をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【会長】

はい。ありがとうございました。

それでは、締めを副会長、お願いいたします。

【副会長】

皆様、お疲れさまでございました。時間も押しちゃってございまして、大変申しわけございません。今日、いろいろと新たな30年度の取り組みということでも紹介されまして、これからまたこの取り組みが進んでいくのかなと思ってございます。次回のワーキンググループ活動報告に非常に期待したいなというふうに考えてございます。

以上をもちまして、第1回の会議、終了させていただきます。お疲れさまでございました。ありがとうございました。